

おおてみち

第121号

令和4年(2022年)10月1日
滋賀県立安土城考古博物館

令和4年度秋季特別展 開館30周年記念

里帰り！日本最大の銅鐸

太古の響きを
安土の地で



令和4年
10月8日(土) - 11月20日(日)

◆開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) ◆休館日 10月11日(水・17日)・24日(月)・31日(月)・11月7日(月)・14日(月)
◆入館料 大人900円(690円) / 高大生640円(470円) / 小中生420円(310円) / 県内高齢者(65歳以上)460円(350円) ※は20人以上の団体料金です。
◆主催 滋賀県立安土城考古博物館・京都新聞 ◆特別協力 国立文化財機構文化財活用センター・東京国立博物館
※必ずマスクを着用して下さい。発熱・カゼ症状のある方は入館をお断りしております。

大倉山出土の銅鐸(東京国立博物館蔵 Image: NNM Image Archives)



近江風土記の丘

滋賀県立 安土城考古博物館
Shiga Prefectural Azuchi Castle Archaeological Museum

令和4年度秋季特別展 開館30周年記念

里帰り！

日本最大の銅鐸

— 太古の響きを安土の地で —

会期 10月8日(土)～11月20日(日)
会場 企画展示室

安土城考古博物館の開館30周年を記念する秋季特別展では、滋賀県を代表する考古遺物である大岩山銅鐸を紹介します。

大岩山銅鐸とは、野洲市大岩山から明治14年に14点、昭和37年に10点の合計24点が出土した銅鐸です。ごく近接した地点から出土していて、島根県加茂岩倉遺跡から39点の銅鐸が発見されるまでは、全国でもっとも多い銅鐸出土場所でした。多数銅鐸の埋納例はほとんどが弥生時代中期の銅鐸であるのに対して、大岩山銅鐸は巨大化した後期のものです。後期の銅鐸多数埋納遺跡としては全国でも突出した例です。そのなかには日本最大の銅鐸も含まれていました。邪馬台国が現れる直前の段階に、なぜ近江の地に大量の銅鐸が埋納されたのでしょうか。

今回は東京国立博物館が所蔵する日本最大の銅鐸をはじめとする大岩山銅鐸を集め、これを軸にしてその前後の時代に近江の地が担ったと考えられる歴史的な役割を探ってみます。

【主な展示資料】

新庄銅鐸 1点(倉敷考古館所蔵 重要文化財)
山面銅鐸 2点(東京国立博物館所蔵)

大岩山銅鐸(明治14年出土) 7点

(東京国立博物館(重文)・國學院大學博物館・辰馬考古資料館(重文)・天理参考館(重美)・知恩院(重美)所蔵)

大岩山銅鐸(昭和37年出土) 10点(当館所蔵(重文))
古富波山古墳出土銅鐸 2点(野洲市歴史民俗博物館個人所蔵)
大岩山第二番山林古墳出土銅鐸 2点(東京国立博物館所蔵)
大岩山古墳出土銅鐸 2点(知恩院所蔵) ほか



大岩山 銅鐸集合 (野洲市歴史民俗博物館提供)

〈特別展開連講座〉

10月15日(土)

「大岩山銅鐸と弥生時代の祭祀」

講師 井上洋一氏(奈良国立博物館館長)

11月5日(土)

「弥生時代後期の近江と大和」

講師 桑原久男氏(天理大学文学部教授)

会場 当館セミナールーム

定員 70名(2講座セット・往復はかきによる事前申込)

参加費 各回300円

*今後の新型コロナウイルス感染症の状況によっては、中止または変更する可能性があります。随時、当館ウェブサイトにてお知らせしますので、ご来館の際は最新情報をご確認ください。



新庄流水文銅鐸
(倉敷考古館蔵・同館提供)



古富波山古墳 三角縁三神五獣鏡
(個人蔵 野洲市歴史民俗博物館提供)



大岩山出土一号銅鐸
(東京国立博物館蔵 ColBase: <https://colbase.nich.go.jp/>)

収蔵資料紹介

絹本着色 聖徳太子像

一幅

文政年中（二八一八〜三〇）
縦九五・九cm 横三七・二cm
近江八幡市長命寺蔵（当館寄託）

この像は、近江八幡市長命寺町、穀屋寺に伝来したものです。本尊を木造聖徳太子像（江戸時代）とする穀屋寺は、現在、古刹長命寺の麓にあります。長命寺の再建・修理のための資金を募る勸進を担当しました。

柄香炉（えいこうろ）を捧げ持つ青年期の聖徳太子像は、「孝養像」と呼ばれます。髪を美豆良（みずら）に結び、鮮やかな袈裟（けさ）を身に着ける姿が描かれています。

この像は、令和二年に保存修理が行われ、細部の描画をより鮮明に拝見できる状態になりました。そこで、特に注目したいのが、繊細で緻密な描画です。鼻筋や脛には白い一筋の光、頬には淡い血色が見え、凛々しく若々しい太子の表情が表



絹本着色 聖徳太子像
長命寺蔵（当館寄託）修理後本紙

現されています。衣の文様は、衣文線の向きに沿ってひとつひとつ細かく描かれており、丁寧な筆致が印象的です。裏書には、作者は灰屋久兵衛、通称灰久、画号は霞溪との内容が記されています。調べてみると、商人でありながら、書や絵画も得意とした中村久兵衛光義という人物を示していると分かりましたが、作者自身や、穀屋寺との関わり、他の作例についてなど、不明な点が多く残ります。修理によって公開が安全にできるようになったことで、注目が集まり、作者やこの像の詳細な来歴が明らかになることが期待されます。

また、長命寺本堂伝来の絹本着色聖徳太子像一幅についても、同じ時期に保存修理が行われました。これら修理を終えた二幅の太子像は、聖徳太子千四百年悠久の近江魅力再発見委員会の事業の一環として、令和四年十一月三日（木）から二十七日（日）までの期間、長命寺本堂内陣にて修理後初の特別公開が行われます。是非この機会にご参拝いただき、修理成果にもご注目いただけますと幸いです。

（岩崎里水）

甦る安土城

「安土山図屏風」のゆくえ

織田信長が天下人の城として築いた安土城は、本能寺の変の後、天主をはじめとする主郭部が焼失しました。その後、安土城は再建されることなく、現在は城跡に残る石垣にかつての威容を想像するほかはありません。

平成元年度から二十年間にわたって実施した特別史跡安土城跡調査整備事業では、発掘調査や古文書調査を行い、金箔瓦をはじめとした多くの資料を得ましたが、安土城の実像解明にはより多くの資料が必要です。中でも注目されているのが、「安土山図屏風」です。信長が描かせたこの屏風は、天正遣欧使節によってローマ教皇に献上されましたが、その後行方不明となり、現在も所在は不明です。

滋賀県では令和元年度から安土城の実像を解明し、最新のデジタル技術を活用して復元することを目指し、「幻の安土城」復元プロジェクトに取り組んでいます。現在、令和の大調査に向けて全体計画づくりを進めています。合わせて、「安土山図屏風」をはじめとした安土城関係資料の情報収集も行っています。資料の情報をお持ちの方は、ぜひ左記まで情報をお寄せください。

滋賀県文化財保護課
安土城・城郭調査係

mail : castle@pref.shiga.lg.jp

電話 : 077-528-4678



搦手口出土金箔軒丸瓦
（滋賀県蔵）

特別陳列 近江の遺跡発掘成果Ⅱ
「良い年になりますように！」
—招福と無病息災のラッキーアイテム—
(望楼下) 11月26日(土)～令和4年1月22日(日)

令和4年度秋季特別展 開館30周年記念
「里帰り！日本最大の銅鐸
—太古の響きを安土の地で—」
10月8日(土)～11月20日(日)

博物館の主な催し

12月	11月	10月
28日(水)～1月4日(水) 年末年始休館 26日(月) 休館日 19日(月) 休館日 12日(月) 休館日 11日(日) 連続講座Ⅱ 「水の考古学」② 「湖国の湧水を探して歩く」 講師：用田政晴氏(神戸学院大学人文学部教授)〈要予約〉 5日(月) 休館日 3日(土) お正月飾りを作ろう〈要予約〉 休館日	28日(月) 休館日 26日(土) 史跡探訪「安土城」 23日(水・祝) 史跡探訪「桑實寺と瑠璃石」 21日(月) 休館日 19日(土) 連続講座Ⅱ 「水の考古学」① 「王と武将の水の道をたどる」 講師：用田政晴氏(神戸学院大学人文学部教授)〈要予約〉 14日(月) 休館日 7日(月) 休館日 5日(土) 特別展開連講座②「弥生時代後期の近江と大和」 講師：桑原久男氏(天理大学文学部教授)〈要予約〉 休館日	31日(月) 休館日 24日(月) 休館日 17日(月) 休館日 15日(土) 特別展開連講座①「大岩山銅鐸と弥生時代の祭祀」 講師：井上洋一氏(奈良国立博物館館長)〈要予約〉 11日(火) 休館日 3日(月) 休館日

桑実寺縁起絵巻に 描かれた景色

安土城跡など城跡を巡ることの多い当館の「史跡案内」に、今年初めて、近隣の桑実寺くわのみでらが加わりました。春季特別展に、重要文化財桑実寺縁起絵巻えんぎえまきが35年ぶりに里帰り展示されたことに加え、同寺で12年に一度の秘仏御開扉ひらが行われるからです。



桑実寺からの景色

秋の史跡案内では、絵巻物は見られませんが、重要文化財の本堂を拝観して本尊の薬師如来やくしにょらいにお参りした後、絵巻で天津京で疫病を癒やした薬師如来が、湖を渡って桑実寺となる場所に降り立った「瑠璃石るりいし」を探します。その途中で、絵巻に描かれ、將軍足利義晴あしかがよしはるも見たであろう16世紀前半の景観を彷彿とさせる、現在の眺めが堪能できます。ひと味違った史跡案内、ぜひともご参加下さい。

史跡探訪「桑実寺と瑠璃石」

日時：11月23日(水・祝) 9時50分～12時
参加費：500円(入山料を含む)

定員：20人

申込方法：10月23日から往復ハガキで受付。

桑実寺秘仏薬師如来御開扉

期間：11月1日(火)～30日(水) 9時～17時
入山料：大人300円・小人150円

※博物館開連講座の会場は当館セミナールームです。

※事情により行事内容や日時・講師が変更になることがあります。最新の情報は当館ホームページでご確認ください。

※講座はすべて事前申込制となっております。詳細は、電話でお問い合わせください。なお、当館ホームページおよび講座の広報チラシでもご確認ください。

※滋賀県立安土城考古博物館は公益財団法人滋賀県文化財保護協会が指定管理をしています。

おおてみち 第121号
令和4年(2022年)10月1日発行

編集・発行 滋賀県立安土城考古博物館
〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678 TEL0748-46-2424
E-mail: gakugetai@azuchi-museum.or.jp URL: https://www.azuchi-museum.or.jp